

関東学院大学・工学部における SNS と e-Learning を融合した 入学前準備教育

関東学院大学工学部庶務課
千葉 敏雄
tchiba@kanto-gakuin.ac.jp

関東学院大学工学部では、6年前から推薦入試合格者AO入試等を対象に、大学の講義にスムーズに入っていけるよう手助けすることを目的として入学前準備教育を実施している。2006年度入学生までは、大学で説明会を開き、その後郵便で本学・合格者と添削作業のやりとりを実施していた。従来から大学入学後、本工学部では情報教育を重要視しており、入学前準備教育を利用し、大学入学前にパソコンへ馴染んでもらうことを考えた。学生の学習状況を途中の状況を踏まえ把握し、効果を高めることとあいまって、2007年度入学生からe-Learningを導入し入学前準備教育を行った。今年度実施2年目を迎え、初年度実施を踏まえ改善点とその結果を報告する。

新たに、2008年度入学生には、e-Learningによる入学前準備教育にソーシャルネットワークサービス(以下、SNS)のコミュニティ機能を取り入れたシステムを構築し、大学と学生および学生同士のコミュニケーションの場を提供した。これにより、入学後の学校生活や学習に対する不安の解消や、疑問の解決、共同作業が多い工学部の学生に重要となるコミュニケーション能力の向上といった効果をあげるなど、入学後の学生生活の環境づくりを強化することができると確信した。また、学習上の問題や疑問をSNSのコミュニティの場に投げかけることで、夜間でもコミュニティに書かれた記事や他の学生からアドバイスにより自ら問題解決を行ない、学習を中断することなく入学前教育に取り組むことができる。その結果、効果が出たことを合わせて報告する。

[Keyword] 入学前準備教育、e-Learning、大学生生活不安解消、コミュニケーション、SNS

1. はじめに

2007年度入学生からe-Learningを導入し入学前準備教育を行い、今年度は実施2年目を迎えた。昨今パソコン・インターネット加入の普及が拡大している。それに伴い、e-Learning教材が各大学の授業に反映し普及していることもわかった。本工学部は、従来情報教育を重要視しており、入学前準備教育を利用して、パソコンへ馴染んでもらうことが有効ではないかと考えていた。6年前から入学前準備教育として推薦入試合格者、AO入試合格者(以下学生とする)に工学部の教育に必要な基本的知識を再確認し、大学の講義にスムーズに入っていけるよう手助けすることを目的として実施した。従来行っていた紙面の数学・英語教科の課題を郵送で提供し本学と添削作業のやりとりを数回行っていた。まだ入学していない学生ということから、その進捗状況は、郵送の紙面教材を受領した段階で判断せざるを得なかった。しかしながら、e-Learningの実施が可能であれば、リアルタイムに学生の進捗状況も把握でき、激励メール等を瞬時に発信することも可能であり、学生の質問にも即座に対応できる等、利点が数多くある。リアルタイムに教材へ取り組むことが出来る便利さを知ってもらった。

また、新たにe-Learningによる入学前教育にSNSのコミュニティ機能を取り入れた。昨年、e-Learningを導入した際、質問をリアルタイムに受け付けていたが、大学入学後の学生生活に不安を抱く質問が多かった。次年度に向けて何か解消できる方策を検討した。入学前準備教育のe-Learningと融合するシステムを導入することで、大学と学生および学生同士のコミュニケーションの場を提供した。これにより、入学後の学校生活や学習に対する不安の解消や、疑問の解決、共同作業が多い工学部の学生に重要となるコミュニケーション能力の向上といった効果をあげるなど、入学後の学生生活の環境づくりを強化することができると確信した。

2. e-Learningの導入について

e-Learningを実施するにあたり、環境について初年度検討を行い、イントラネット（本学にサーバーを設置）もしくはASP（webサーバー）で実施する選択について多くの業者を比較検討した。現在はASP利用の利点が多い。e-Learningを利用している大学の大半は、大学で環境を整えなくてもトラブルがなく、セキュリティーもしっかりしていた実証がある。また、コストについても非常に効率が良かった。よって、e-LearningはASPを利用することとなった。業者選択については、今年度も数社の中からe-Learning教材が豊富で、他大学に導入している事例もあり実績のあるF社を選択した。

3. 入学前準備教育の導入とe-Learning2年目との比較

学生へアンケートを実施した結果、講評であったが改善点も多かった。その対処をおこなうこととした。

改善点

- ① パソコンの起動からLOGINに関する基本的操作の質問が多かった
- ② 解説に講義映像を使用した。PCやインターネット環境の問題で、映像が正常に表示されないなどの理由から、スムーズに学習できない生徒が多かった
- ③ 夜間に学習する生徒が多く、夜間でも生徒の疑問を解決できる仕組みがほしい
- ④ 教材に本学の歴史や教育方針を組み込みたい

解決方法

- ① 12月実施の説明会でパソコン教室を使用し生徒へLOGINからパスワード変更まで実践させた
- ② 講義映像を使用せず、Flashベースの教材に変更した
- ③ 夜間の問題解決のための手段としてSNS（後述説明）のコミュニティ機能を提供した
- ④ 英語教材は本学教員作成のe-Learning教材を使用した

4. 実施教科、実施時期及び実施に向けての方策及び本学説明会

① 実施教科

英語・数学（英語・数学・物理前年度は3教科）の2教科で、昨年推薦合格者が対象者のため、「物理」教科を履修していない者が多く進捗率が悪かった。物理については、入学後にフォローすることとし2教科とした。また、今年度の英語教材は、本学の歴史や教育方針を組みこむため本学教員が作成した。

② 実施時期

12月～4月（前年度は1月）

③ 実施に向けての方策及び本学説明会

- ・12月にID及び説明書類をDMで発送
- ・本学で数学・英語・物理の入学前授業、e-Learning操作・SNS説明会30分実施
- ・自宅にパソコン環境がない学生への対応も含め、例年実施していた説明会（e-Learning操作説明を含む）を大学で開催したパソコン教室で、1班約120人対象に説明者1名補助3名で対応しIDとパスワード配布。e-LearningのLOGINからパスワード変更まで実施し、教材の導入試験を画面で内容を確認させた。（前年度は、実際にLOGINまで操作をさせずにプレゼンテーション。）

5. パソコン環境調査及びパソコン環境がない対応方法

学生471名に対し、12月にID及び説明書類をDMで発送した際、PC環境のアンケート調査を4項目行った。

- ① PC環境あり94.1%（前年度87%）
- ② PC環境なし5.8%（前年度13%）

インターネットへ接続できるパソコンの保有率は全体の94%と高く、PC環境にはさほど問題ないといえたが、学生へ大学で説明会を実施する前にPC環境調査をまとめたことで、パソコン環境がない学生に対して説明会当日以下を確認し対応を行った結果、対応が出来た。

- ① 高等学校の協力を得られる
- ② 図書館や公民館その他でパソコンの使用環境がある
- ③ 自宅が近隣であり本学に通い学習できる
- ④ 紙面の学習を希望する

学生と協議の結果、大半の学生は、高等学校へパソコン使用協力を得ることで進めることとし、電話で直接協力依頼をお願いしたところ、ほとんど快諾を得られた。これによって、紙面の学習希望をした学生は、最終結果として1%4名（前年度 1.4%（7名））まで軽減した。

6. 学習支援と成績評価について

e-Learning導入は、学生がマイペースで学習できるメリットがある。しかし、2教科を学習するにあたり、苦手分野をどのような方法で克服できるかを考え選定した。

学習支援

QA対応パソコンが不得意な生徒や学習に行き詰った生徒をフォローするために、電話・メールによるQA対応を実施し、スムーズな学習支援を行った。

学習のフォローアップ

- ① 学習の進捗が伸びない学生に対し、学習進捗状況をリアルタイムに把握し、定期的に激励メールを送信
- ② 1月末の時点で学習を開始していない学生へ催促DMを発送
- ③ 受講前テスト、修了テストを実施していない生徒に催促メール送信

SNSコミュニティ機能の提供

学習上の疑問点や問題点を共有し、課題解決の場としてコミュニティを提供することでモチベーションUPを狙った。

成績評価

「受講後アンケート」の実施を行い、アンケートから生徒の評価や意見を収集・分析し、来年度以降の参考とした。生徒全員の学習履歴とテスト結果を集計・分析・報告書の作成をすることとなり、今後の課題に役立つ。

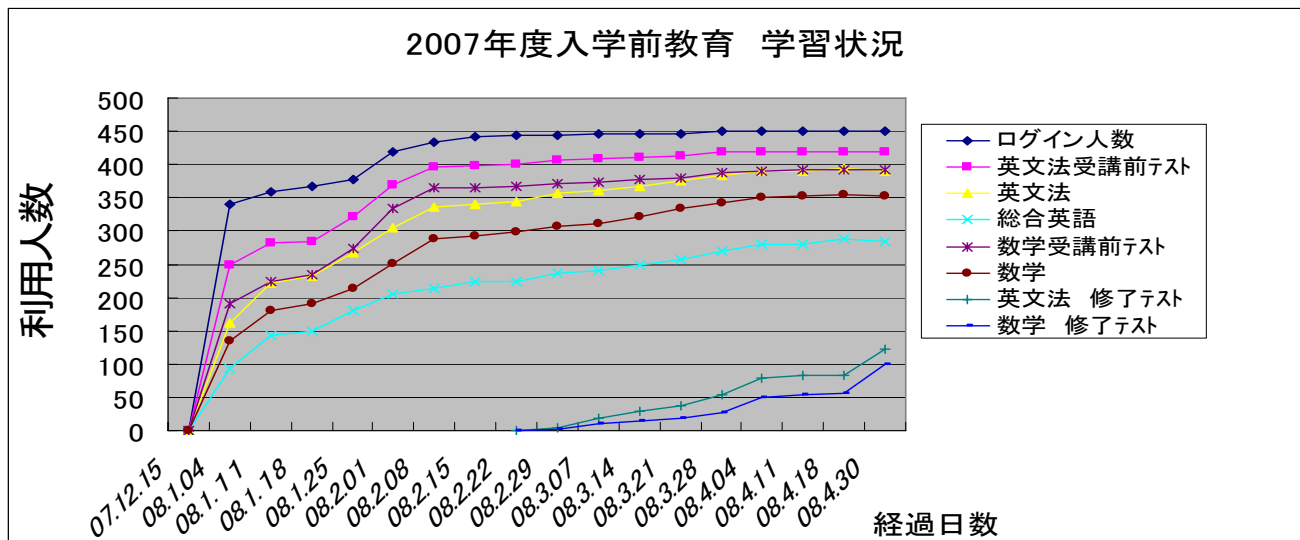
7. 実施状況

今年度実施にあたって、説明会にIDとパスワードを配布し、e-LearningのLOGINからパスワード変更までの操作説明会を行ったため、スムーズに学習をすることが出来たと判断する。期間及び対象利用者は、グラフ1に示すが、4ヶ月間での利用率で達成者は、96.9%と成果が挙げられた。（前年度93.1%）（3年前紙面教材の時は85%）学習をしていない学生については、4月に呼び出しで学習を促した。全教科別（グラフ1）に示しているが2月中旬から3月末日にかけ集中して利用をしていたことがわかる。科目別進捗率は、科目の項目別にばらつきがあった。次年度は進捗率Upの対策を検討する。また、4月の1ヶ月を利用延長したことで、復習や達成途中の学生がいたため、4月に入っても継続して学習ができている結果が得られた。これは入学後1ヶ月であるが、大学環境で学習ができ、教員・学生支援室のフォローをしたためである。

実施期間：2007年12月15日～4月末日

達成率：①学生：471人②4/30現在で利用者数：456人/471人=96.9%

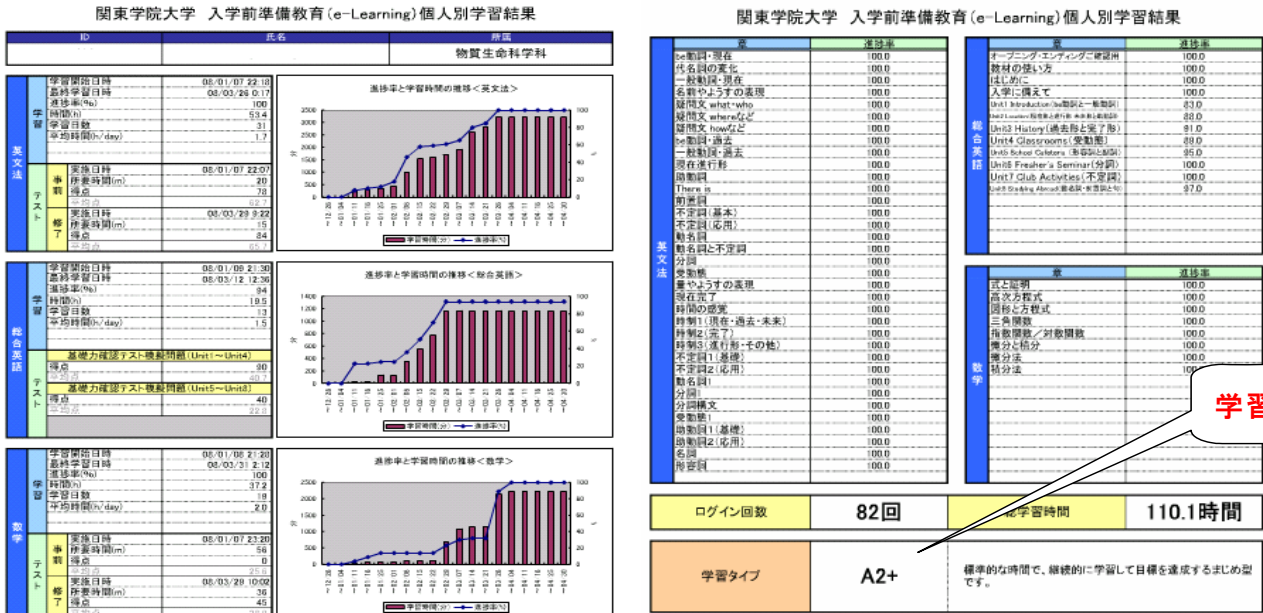
学習日数：10～20日を学習している。



グラフ 1

8. 個人成績と学習タイプ

リアルタイムの学習進捗状況により、約5ヶ月間の学習の進捗状況やテスト結果をグラフ2に示した。個人成績表には科目毎の学習日数および時間、進捗の推移、単元毎の状況、修了テストの得点が記載されており、約5ヶ月間の学習状況がわかる。この情報から学習タイプ（一夜漬けタイプやコツコツタイプ等）を判断している。学習タイプは急激に変化するものではないので、入学後の個人指導や離学者対策に有効と考えている。これはe-Learningならではの成果である。



グラフ 2

9. 入学前準備教育後の実施成果及びフォロー体制

工学部では、入学前4月のオリエンテーション期間にプレースメントテストを実施している。教科は、英語・数学・物理である。今回も入学前準備教育対象者に対して成果が上がったか確認をした。その結果、昨年より平均点が上昇した。その要因はe-Learningによる学習と判断した。

パソコンの操作方法の慣れについては、4月初めにWEB履修登録を実施しているが、操作説明会を教務課が独自に実施している。参加者も少なく質問もほとんどなく履修登録ができた報告があがっている。学生がパソコンを使用する際、違和感なく操作できた結果が出ている。

フォロー体制については、プレースメントテスト結果で一定の点数に達していない学生へフォローアップとして、共通科目の卒業要件に算入する補正授業科目「英語基礎」「数学基礎」を設置し受講させている。それらの課題等も英語の一部でe-Learningを採用している。そこでもスムーズに学習へ取り組むことができ、e-Learningの成果と考える。それと同時に課題をこなすために、学習支援及び学生支援室で高校教員OBのチューター制度を設け、対面教育とe-Learningの両方に対応し、ここではブレンドラーニング（対面・e-Learning教育）を実施し手厚いフォローを行うこととした。また、3月に日程を設け、e-Learning教育でわからない点を本学学生支援室において、高校教員OBのチューターによる入学前準備教育の対面教育を実行し数名が参加した。

10. SNSの導入趣旨

昨年度のQ&Aで「大学生活に不安がある」等質問が多かった。大学関係者が回答することで不安が解消できないか？不安を解消するのは「友達づくり」？ではないか、疑問や問題を主体的に解決できる場を提供し、学習を止めない環境作りを考えた。また、モチベーションの維持ができ、学習サポートを含めフォローアップの場として利用できることを検討した結果、e-Learningによる入学前教育にSNSのコミュニティ機能を新たに取り入れたシステムを構築し、大学と学生および学生同士のコミュニケーション（グラフ3）の場を提供した。

入学後の学校生活や学習に対する不安の解消や、疑問の解決、共同作業が多い工学部の学生に重要となるコミュニケーション能力の向上といった効果を上げるなど、入学後の学生生活の環境づくりを強化することが出


きると確信した。また、学習上の問題や疑問を SNS のコミュニティの場に投げかけることで、夜間でもコミュニティに書かれた記事や他の学生からアドバイスにより自ら問題解決を行ない、学習を中断することなく入学前準備教育に取り組むことができることを確信した。

「友達をつくる」を楽しく利用するための3つのポイント

✓ **自己紹介を書こう!**

自分のアピールポイントや趣味など自分情報を発信してみんなに自分を知ってもらおう!

同じ趣味や気のあう友人と出会えるかも?



✓ **積極的に参加しよう!**

どんな大学生活が待っているかドキドキしているのはみんな同じです。

入学後の生活を楽しくするために恥ずかしがらずにどんどんコミュニティに参加しましょう。

学習以外の書き込みもOK!

✓ **書き込みは思いやり**

Webサイトのやりとりは、思いがけず相手を傷つけてしまうことがあります。

書き込みをするときは読む人のことを考えて!

また、自分や友人の電話番号や住所といった個人情報は書き込まないように注意しましょう。

グラフ 3

11. SNS の問題点と解決方法

SNS の問題点を挙げ、解決するための方策を検討した。

問題点

- ① 高校生が自発的に Up するか
- ② 簡単に利用してもらうための工夫は何か
- ③ 誹謗中傷の処理方法をどうするか
- ④ 炎上（荒れる・崩壊）をどう防ぐか

解決方法

- ① コミュニティを目的別に細分化・発言しやすくし、コミュニティ毎に管理者（大学関係者）を配置する。工学部長・学科教員・英語数学教員・学生課・学生支援室・教務課・工学部庶務課（リーダー）など、学生が質問を UP 後、大学側の回答は迅速かつ丁寧な対応を行う。
- ② 入学前準備教育 LOGIN 後のトップページのお知らせで利用を勧誘する。親しみやすいネーミングを考慮し、わかりやすいチラシやマニュアルを目のつくところに配置した。入学前準備教育の説明会で説明及びデモを行い、携帯電話からでも利用可能とした。e-Learning 学習と同じ ID/PW で相互利用を可能（シングルサインオン）とした。
- ③ 懸念する状況が起きた場合の対応ルール策定を行い、UP された内容（通報機能の報告等）について危険度をランク付けした。また、明らかなものは、事業管理者が削除（学校より委任）→学校へ報告することとした。そうでないものは、事業者より相談→学校判断→事業者削除のルールを決定した。また、新しいコミュニティが登録された場合一定期間状況監視することとなった。
- ④ 生徒と大学関係者全員を事前に一括登録し、関係者以外の生徒の招待機能を停止したことで、プライベート空間による安心感を持たせた。サービス開始時は匿名ではなく、学生本名で運用開始をさせ、自分の発言に責任をもたせ抑制効果を期待した。SNS 内に利用上の注意（ネットリテラシ）を掲載し学校の真摯な対応による荒れない雰囲気作りを行った。常に SNS を監視している雰囲気作りを確立させ、個人攻撃を認識した時は、本人へ忠告を即座に配信することとした。

12. SNS の運用方法と利用状況

SNS の運用をするにあたり、サービス開始時に大学側で用意したコミュニティ（グラフ 4）である。

各コミュニティは以下のコミュニティで振り分けし、対応者も分けてスムーズに回答できるよう監視した。

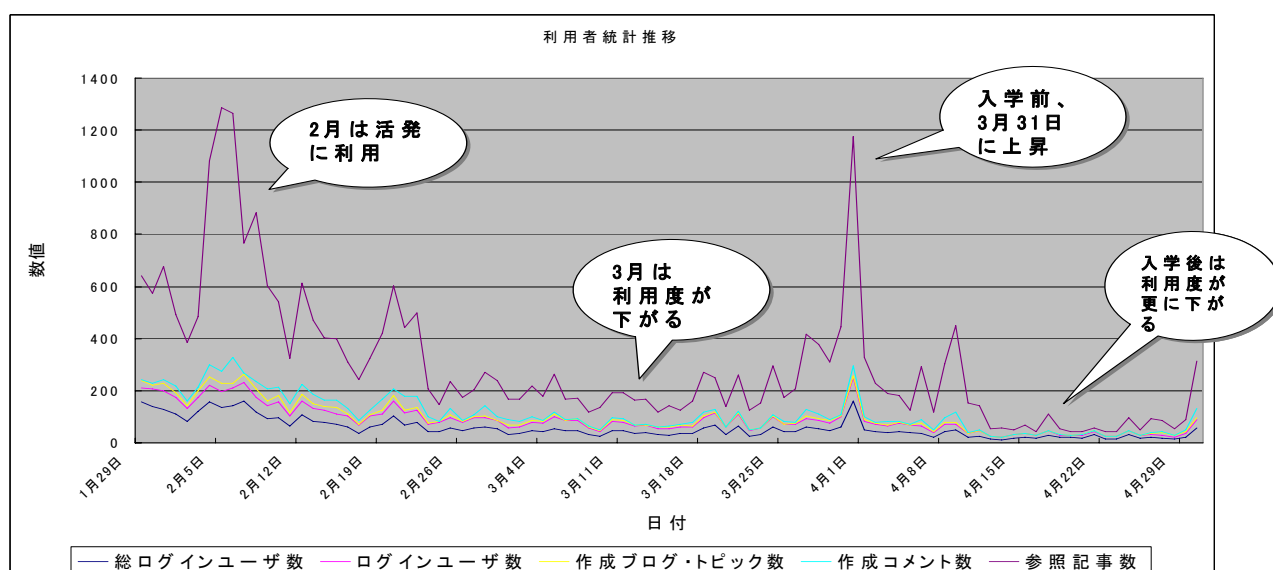
- ① 学習フォローコミュニティ（入学前準備教育の部屋）⇒ 英語・数学の教員
- ② 生活フォローコミュニティ（なんでも相談室の部屋）⇒ 教務課・学生課・学生支援室・工学部庶務課
- ③ 学生同士のコミュニティ（友達つくりの部屋）⇒ 教務課・工学部庶務課
- ④ 学科のコミュニティ（学科教育の部屋）⇒ 各学科長が主対応（6 学科）

※ 工学部長と工学部庶務課（リーダー）はすべて登録

No	コミュニティ名	初期登録者	公開レベル	参加条件	招待	内容
1	機械工学科へようこそ	当学科入学予定者全員 当学科関連職員	全公開	誰でも	参加者	学科内のコミュニケーション学科内での連絡
2	電気電子情報工学科へようこそ					
3	情報ネット・メディア工学科へようこそ					
4	建築学科へようこそ					
5	社会環境システム学科へようこそ					
6	物質生命科学科へようこそ					
7	(準備前教育)英語の部屋	入学予定者全員 学習学科別関連職員				大学のこと。パソコンのこと。などを聞きたいこと聞きたいときに。
8	(準備前教育)数学の部屋					
9	何でも相談室	SNS登録者全員				
10	友達をつくらう					

グラフ 4

SNS の利用状況は、全体の 67% の生徒が利用している。その内の約 8 割が 3 月に LOGIN をしている。月別の利用状況 (グラフ 5) は、2 月上旬高校が休みになる時期でもあり、活発に利用している状況がわかる。2 月後半から 3 月上旬は、卒業旅行やアルバイトをする期間と判断して利用率が下がったと予想する。また、4 月入学前に急上昇しているのは、大学の準備に入るため利用したと判断した。



グラフ 5

SNS のコミュニティ / 学生のプロフィール (ブログ含) / アクセスランキングのベスト 10 は、グラフ 6 に示すが、記事の参照が多く見られる。質問を誰かがすれば、1 つの回答を見るだけでわかるので、記事参照のアクセス件数が多いのは、そのためだろう。しかしながら、書き込みがなくても活用していることはわかる。具体的には、「何でも相談室」の大学生活について多かったのは、① 購入するパソコンについてなど用意するものへの質問②オリエンテーションなど入学後の予定に関する質問③入学後の勉強についての質問、e-Learning については、①入学前学習に関する質問② e-Learning システムに関する質問が多かった。また、学生によるコミュニティの利用は、①音楽・ゲームなど自分たちの趣味について②メッセージ・ブログ掲載である。なお、学生が立ち上げたコミュニティ (ブログ含む) は、約 300 件となった。

順位	アクセス数	記事件数	コミュニティ名/USER_ID	種別	備考
1	1,153	92	何でも相談室	コミュニティ	大学への質問など
2	1,105	80	友達をつくろう	コミュニティ	導入時に案内、被アクセス数上位者が書き込み
3	745	458	USER01	学生	メッセージ、ブログも多い
4	424	75	モンスターハンター集会所	コミュニティ	学生作成のコミュニティ。参加者8人。1つのトピックに20件くらいのコメントが付いている傾向
5	391	135	USER02	学生	
6	383	208	USER03	学生	
7	349	575	USER04	学生	
8	338	146	USER05	学生	
9	311	66	USER06	学生	
10	310	0	情報ネット・メディア工学科へようこそ	コミュニティ	

グラフ 6

13. SNS アンケート結果

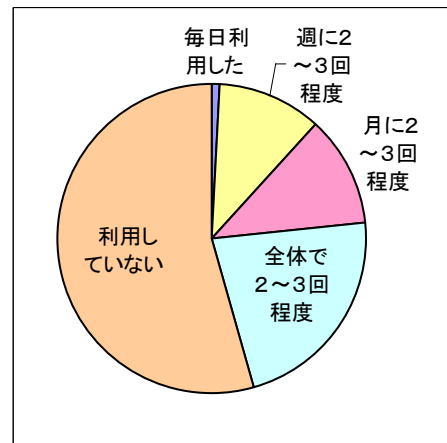
SNS 利用者についてアンケートを実施した。グラフ 7 を見ると、利用頻度は 50% を越えていない。しかしながら、参照はしていると判断するが、明確でないため、次年度質問事項にアクセス（参照記事）の項目を追加する。

利用したサービス上位 5 項目は、①プロフィールを見る（自己紹介）②新着③メッセージを送る④ブログを書く⑤コミュニティであった。

入学後の友達作りや不安解消に役立つかの質問では、役に立つ・わからないで 70% 近い結果がでている。

感想について質問したところ、大変良かった・良かった・普通の合計が 80% 近く好評であることがわかる。学生の意見・要望などについて質問をしたところ、①大学に対して

の相談や質問があったのがよかった②人見知りの人は話しかけやすいと思う③顔こそわからないものの、不特定多数の人と交流が持てて、人付き合いにも自信がもてたような気がしました④文字で意見交換するので、緊張しなかった⑤なにもわからないまま大学へ入学するよりも少しでも友達ができるしなじみやすかった⑥文章を通して、相手に自分の思いを伝えるというのも、ある意味で文章力のトレーニングになったような気がしました⑦書き込んだ事はなかったが質問等を覗かせてもらうことはあったのでそれなりに役立ちました⑧学業・私情関係なく情報の交換が出来たため、楽しんで利用することが出来ました、などの意見が寄せられた。



グラフ 7

14. SNS の効果とまとめ

入学前準備教育に対する効果

他の生徒との繋がりを持つことで 1 人ではないという気持ちが入学前準備教育のモチベーションを UP させた。夜間のサポート対応時間外に、生徒間で問題解決することで、学習を止めないモチベーションも維持された。生徒間での Q & A 情報共有による Q & A 件数の削減が結果として出された。

大学入学に向けての不安解消に貢献

大学の授業内容、入学後の学生生活や人間関係に対する疑問や不安を共有できた。学生自身は、発言しなくても、SNS 上で他の生徒の発言を見ることで同様な不安をもつ生徒がいることを知り、焦りを軽減

できた。また、大学関係者の丁寧かつ迅速なコメントで安心感を得たと判断した。

これらを評価し、学生同士が自発的に UP したことは評価であり、「炎上」(荒れる・崩壊)はなかった。学生へのネチケットなどの周知徹底が功を奏したと判断する。また、荒れづらい雰囲気作りをしたことも評価したい。

Q & A 対応件数の削減については、107 件であった。これは、前年度 159 件を大幅に減らした結果ができた。学習意欲の維持アップにも貢献でき、コミュニティへの直接的な参加ではないが、参照等による間接的な SNS への参加が多く、結果として入学後の学生生活の不安解消に貢献できたとし、総合評価として成功と確信する。

15. 今後の課題

e-Learning による学習について次年度の課題は、①学習意欲がわからない学生に対するやる気の向上②昨年も入学前準備教育が達成しない学生がいたのでその方策③SNS でフォローアップと Q & A も充実④ブレット教育の PR 方法⑤学生へ学習の達成を促す説明を明確にする⑥基礎スキルの向上⑦授業がスムーズに受けられる方策を検討したい。また、SNS による友達づくりについて次年度の課題は、①在学生の参加をどうするか②運用中にアンケートを実施し、生徒の状況に応じた柔軟な運営③SNS を利用した生徒の在学追跡調査を実施したい。

16. まとめ

e-Learning による学習と SNS によるコミュニケーションの組み合わせは相互効果が望め、次回も実施は必須と考えている。学習サポートを含めフォローアップが出来たことは、2 年目の成果として挙げられる。入学前に Web 上で大学と学生間のコミュニケーションが取れ、情報共有・モチベーション・不安解消に効果があったと判断し、生徒間で問題解決が行え、仲間意識も高まった。また、紙面郵送の添削による入学前準備教育との違いは、①リアルタイムに進捗状況がわかる②学習者へ良いタイミングで激励メールを配信③学習していない生徒へダイレクトメールを発信④学習率も UP⑤入学後の 1 ヶ月間大学で復習ができる⑥入学後の LMS (Learning Management system) へスムーズに導入できた。総評として SNS と e-Learning を融合した入学前準備教育の成果は今後も期待でき、数多くのメリットがあったこととはもとより、入学前の学生と WEB 上のコミュニケーションが SNS で持てたことも成果として報告しまとめとする。

[参考文献(References)]

- [1] 日本初、SNS と e-Learning を融合した入学前教育を導入、関東学院大学・富士通株式会社、Press Release 記事
- [2] 関東学院大学様 入学前教育 SNS 運用について、富士通株式会社、8. January 2008
- [3] e-Learning & Communication To Campus 「友達をつくる」でコミュニケーション、富士通ソフトウェアテクノロジー
- [4] 富士通 関東学院大に SNS と e ラーニングとセットで、日経産業新聞、2008 年 8 月 4 日朝刊 7 面
- [5] 富士通と関東学院大 SNS と e ラーニング利用の入学前教育実施 工学部入学生対象に 4 か月、電波新聞、8 月 5 日朝刊 4 面
- [6] 「退学なくそうネットの輪作り」、朝日新聞、神奈川紙面 31 面
- [7] 「新時代に通用」、毎日新聞、2008 年 10 月 1 日朝刊
- [8] 「広がる実践指導」、毎日新聞、2008 年 10 月 1 日朝刊 教育特集

以上